

図3-37 「介護状態14点群」における認知障害、ADL、問題行動得点の分布

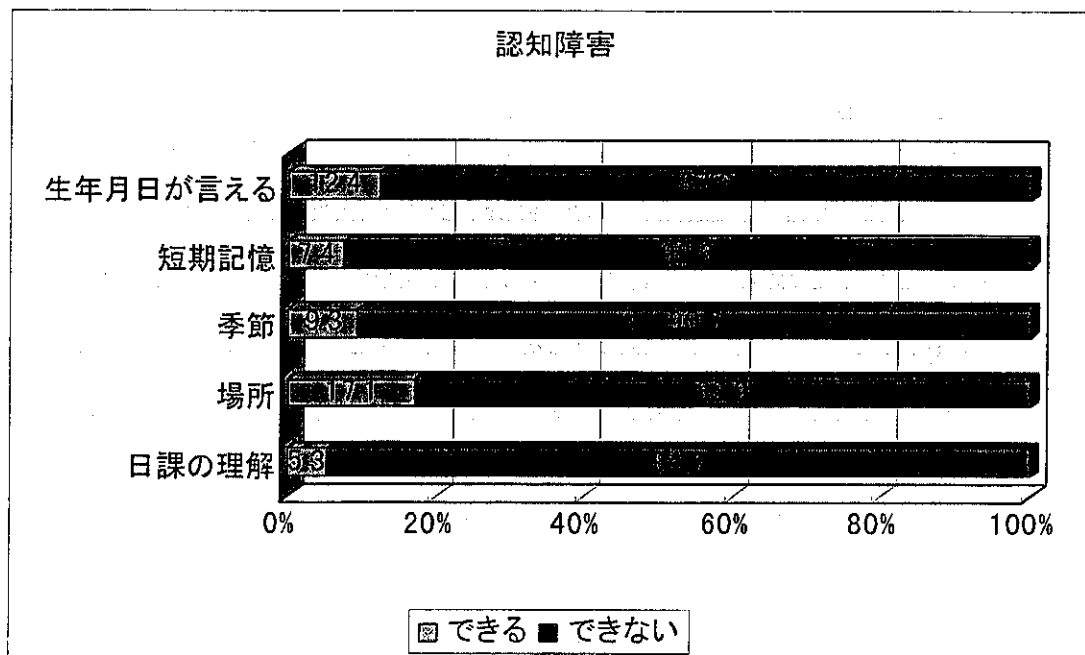


図3-38 「介護状態14点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

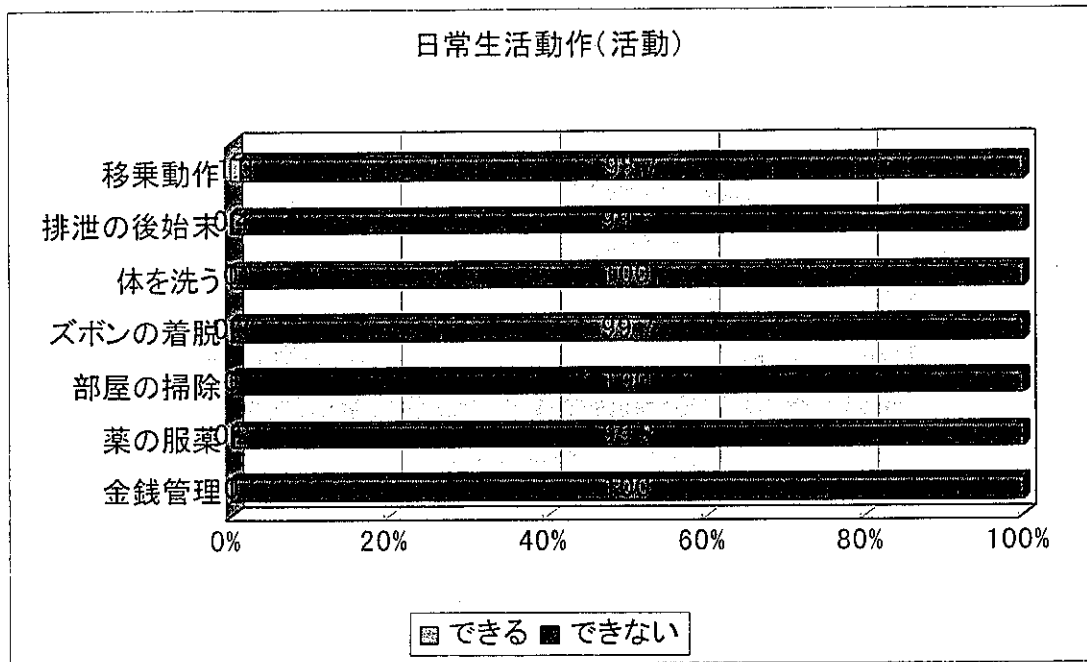


図3-39 「介護状態14点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

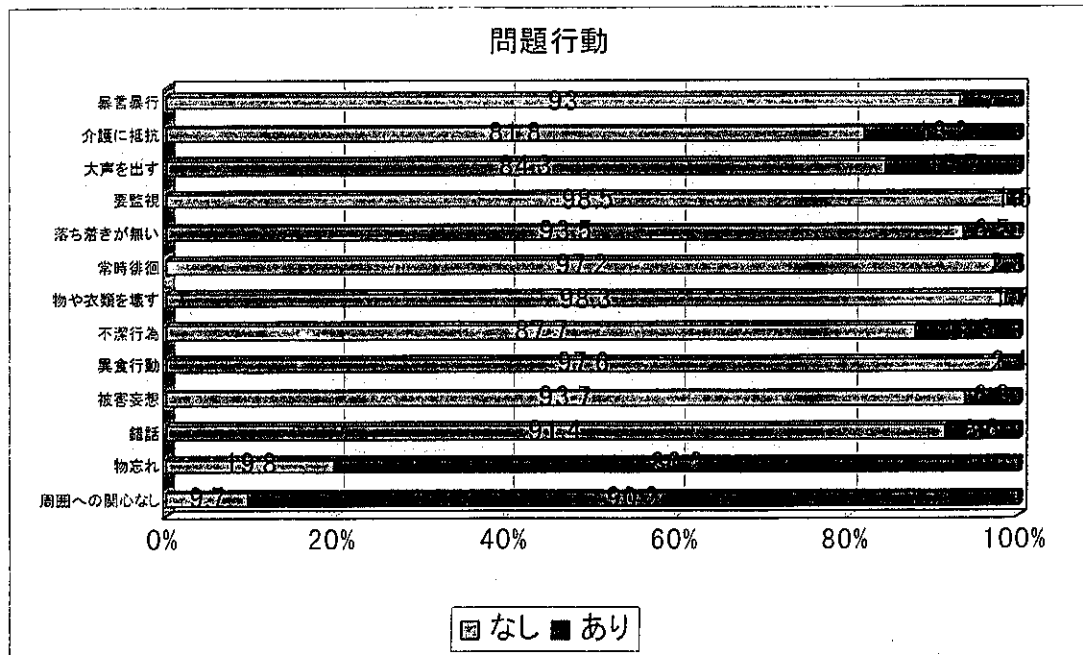


図3-40 「介護状態14点群」の認知障害、ADL、問題行動における特徴

#### 第4節 縦断的研究の調査対象の選定と調査内容

3か年の継続調査を行なう調査対象には、要介護認定調査で用いられる基本調査項目については、6,595名分のデータを収集した。このデータは、全国から収集しており、地域分類からみると、郡部にある市町村が、89.6%、地方都市部が23.2%、都市部が9.4%の割合であり、全国的な市町村の地域分布からみると地方都市、都市部の割合が高いサンプリングとなっている。

表 4-1 調査対象者の所属する市町村の地域分類

	市町村数	(%)
郡部	29	67.4
地方都市	10	23.2
都市部	4	9.4
合計	43	100

また、収集したデータは、表 4-2 に示した要介護認定に関する調査項目をはじめとする高齢者の身体的、精神的な状況に関する調査、そして、寝返り介助、移乗の準備等、移乗の見守り、移乗動作の介助等という実際に行なわれている介護の状況、福祉用具の使用状況等のデータである。

表 4-2 要介護認定（基本調査 8 5 項目） 項目数：103 データ件数：6,595

	項目名	データ内容
1	法人番号	
2	利用者番号	
3	アセスメント調査日	西暦年／月／日
4	前回アセスメント調査日	西暦年／月／日
5	調査者番号	
6	調査者氏名	
7	アセスメント調査目的	0:認定 1:認定外 2:未定
8	要介護状態区分番号	0:未定 1:自立 2:要支援 3:要介護1 4:要介護2 5:要介護3 6:要介護4 7:要介護5 8:再調査
9	要介護状態区分名称	自立／要支援／要介護1～5／再調査
10	視力	0:未入力 1:普通 2:1mで見える 3:目の前でなら見える 4:殆ど見えない 5:判断不能
11	聴力	0:未入力 1:普通 2:やっと聴こえる 3:大声で 4:聴こえない 5:判断不能
12	麻痺の有無	0:未入力 1:なし 2:あり
13	関節可動域制限の有無	0:未入力 1:なし 2:あり
14	じょくそう等	0:未入力 1:なし 2:あり
15	その他の皮膚疾患	0:未入力 1:なし 2:あり
16	片手の胸元持ち上げ	0:未入力 1:できる 2:介助が必要 3:できない
17	嚥下	0:未入力 1:できる 2:見守りが必要 3:できない
18	寝返り	0:未入力 1:できる 2:つかまる 3:できない
19	起き上がり	0:未入力 1:できる 2:つかまる 3:できない
20	両足つく座位保持	0:未入力 1:できる 2:手で支える 3:支えてもらう 4:できない
21	つかない座位保持	0:未入力 1:できる 2:手で支える 3:支えてもらう 4:できない
22	立ち上がり	0:未入力 1:できる 2:つかまる 3:できない
23	両足での立位保持	0:未入力 1:できる 2:支えが必要 3:できない
24	片足での立位保持	0:未入力 1:できる 2:支えが必要 3:できない
25	歩行	0:未入力 1:できる 2:つかまる 3:できない
26	移乗	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助・全介助
27	尿意	0:未入力 1:あり 2:時々あり 3:なし
28	便意	0:未入力 1:あり 2:時々あり 3:なし
29	排尿後の後始末	0:未入力 1:自立 2:間接的援助 3:直接的援助 4:全介助
30	排便後の後始末	0:未入力 1:自立 2:間接的援助 3:直接的援助 4:全介助
31	浴槽の出入り	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助 4:行っていない
32	洗身	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助 4:行っていない
33	口腔清潔	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助

	項目名	データ内容
34	洗顔	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
35	整髪	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
36	爪切り	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
37	食事摂取	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助 4:全介助
38	ボタンのかけはずし	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助 4:全介助
39	上衣の着脱	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助 4:全介助
40	ズボン等の着脱	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助 4:全介助
41	靴下の着脱	0:未入力 1:自立 2:見守りが必要 3:一部介助 4:全介助
42	居室の掃除	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
43	薬の内服	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
44	金銭の管理	0:未入力 1:自立 2:一部介助 3:全介助
45	意志の伝達	0:未入力 1:できる 2:時々できる 3:殆どできない 4:できない
46	指示への反応	0:未入力 1:通じる 2:時々通じる 3:通じない
47	日課の理解	0:未入力 1:できる 2:できない
48	年齢等を答える	0:未入力 1:できる 2:できない
49	短期記憶	0:未入力 1:できる 2:できない
50	名前を答える	0:未入力 1:できる 2:できない
51	季節の理解	0:未入力 1:できる 2:できない
52	場所の理解	0:未入力 1:できる 2:できない
53	物忘れ	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
54	ぼんやり	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
55	被害的	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
56	作話	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
57	幻視・幻聴	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
58	感情不安定	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
59	昼夜逆転	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
60	暴言・暴行	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
61	同じ話・不快音	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
62	大声を出す	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
63	介護への抵抗	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
64	徘徊	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
65	落ち着きなし	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
66	1人で戻れない	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
67	目が離せない	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
68	収集癖	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
69	火の不始末	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
70	物や衣類を壊す	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
71	不潔行為	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
72	異食行動	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある

	項目名	データ内容
73	迷惑な性的行為	0:未入力 1:ない 2:時々ある 3:ある
74	特別な医療の有無	0:なし 1:あり
75	点滴の管理	0:なし 1:あり
76	中心静脈栄養	0:なし 1:あり
77	透析	0:なし 1:あり
78	ストーマの処置	0:なし 1:あり
79	酸素療法	0:なし 1:あり
80	レスピレーター	0:なし 1:あり
81	気管切開の処置	0:なし 1:あり
82	疼痛の看護	0:なし 1:あり
83	経管栄養	0:なし 1:あり
84	モニター測定	0:なし 1:あり
85	じょくそうの処置	0:なし 1:あり
86	カテーテル	0:なし 1:あり
87	左上肢	0:なし 1:あり
88	右上肢	0:なし 1:あり
89	左下肢	0:なし 1:あり
90	右下肢	0:なし 1:あり
91	麻痺その他	0:なし 1:あり
92	肩関節	0:なし 1:あり
93	肘関節	0:なし 1:あり
94	股関節	0:なし 1:あり
95	膝関節	0:なし 1:あり
96	足関節	0:なし 1:あり
97	関節その他	0:なし 1:あり
98	体温	実数値
99	脈拍	〃
100	血圧高	〃
101	血圧低	〃
102	食事摂取朝	〃
103	食事摂取昼	〃
104	食事摂取夕	〃
105	水分摂取	〃
106	排尿	〃
107	排便	〃
108	熱発	0:なし 1:あり
109	誤嚥・誤飲	0:なし 1:あり
110	嘔吐	0:なし 1:あり
111	下痢	0:なし 1:あり
112	便秘の訴え	0:なし 1:あり
113	頭痛の訴え	0:なし 1:あり
114	腹痛の訴え	0:なし 1:あり

115	他の症状等	0:なし 1:あり
116	幻視・幻聴状態	0:なし 1:あり
117	感情不安定状態	0:なし 1:あり
118	暴言・暴行状態	0:なし 1:あり
119	大声を出す状態	0:なし 1:あり
120	徘徊状態	0:なし 1:あり
121	物等を壊す	0:なし 1:あり
122	不潔行為状態	0:なし 1:あり
123	その他の行動	0:なし 1:あり

表 4-3 提供されている介護の種類とその量

01:寝返り介助
02:移乗の準備等
03:移乗の見守り
04:移乗動作の介助
05:移動の準備等
06:移動の見守り
07:移動動作の介助
08:更衣の準備等
09:更衣の見守り
10:更衣動作の介助
11:洗面の準備等
12:洗面の見守り
13:洗面動作の介助
14:口腔清潔の準備等
15:口腔清潔の見守り
16:口腔清潔動作の介助
17:食事等の調理
18:食事摂取の準備等
19:食事摂取の見守り
20:食事摂取動作の介助
21:水分摂取等の準備等
22:水分摂取等の見守り
23:水分等摂取動作の介助
24:排泄の準備等
25:排泄の見守り
26:排泄動作の介助
27:おむつ交換
28:入浴の準備等
29:浴室内の見守り
30:浴槽出入りの介助
31:洗身の介助
32:洗髪 of 介助
33:身体清拭
34:部分浴・洗浄



- 35: 整髪
- 36: 顔の手入れ・髭剃り介助
- 37: 爪切り
- 38: 耳掃除
- 39: 測定・観察
- 40: 服薬等の準備等
- 41: 服薬等の介助
- 42: 薬剤管理・指導
- 43: 医療処置
- 44: 受診の付添い
- 45: リハビリの実施
- 46: 余暇活動の実施
- 47: 会話・相談
- 48: 寝具交換等
- 49: 居室の掃除
- 50: 洗濯
- 51: 買物
- 52: 金銭管理・出納
- 53: 車輦送迎
- 54: 家族への連絡調整表

表 4-4 福祉用具の使用状況

01:電動ギャジベッド
02:エアーマット
03:無圧式ウレタンマット等
04:ビーズパッド・円座等
05:体位変換器
06:その他の除圧用具
07:移動板
08:移動バー
09:移動用リフト・リフター
10:その他の移乗等用具
11:補装具
12:杖
13:シルバーカー
14:歩行器
15:車椅子
16:ストレッチャー
17:その他の移動用具
18:蒸しタオル
19:その他の洗面用具
20:義歯洗浄剤
21:その他の口腔清潔用具
22:普通の主食
23:粥食
24:その他の主食
25:普通の副食
26:刻み食
27:ペースト食
28:ミキサー食
29:トロミ食
30:その他の副食
31:高カロリー食
32:糖尿食
33:高血圧食
34:その他の治療食
35:食事用エプロン
36:滑り止めマット・シート
37:吸い飲み・楽のみ
38:その他の食事等用具
39:トイレ
40:ポータブルトイレ
41:差込便器・探尿器等
42:尿とりパッド
43:失禁パンツ
44:尿感知器(センサー)

- 45: ストーマ装具
- 46: カテーテル
- 47: その他の排泄用具
- 48: 布おむつ
- 49: 紙おむつ
- 50: 一般家庭浴槽
- 51: 一般施設浴槽
- 52: 臥床式特殊浴槽
- 53: 座位式特殊浴槽
- 54: その他の浴槽
- 55: シャワーチェア
- 56: 滑り止めマット
- 57: バスボード
- 58: 入浴用リフト・リフター
- 59: シャンプーハット
- 60: その他の入浴用具
- 61: 普通乗用車・バス
- 62: リフトバス
- 63: 寝台車輦

## 第4章 考案と課題

### 第1節 考案

介護サービスの質を確保・向上させるために、科学的根拠のある具体的手法を開発し、どのような手順と方法論を確立するかといったことを慎重に考慮することは、重要な政策課題である。少なくとも、それは、創設された介護保険制度を円滑に運営するためにも、また今後とも発生するであろう不測の事態に適切に対応するために必要なことである。

そして、質の確保のための具体的手法の開発には、多くの人々の努力に関わらず、介護保険制度施行までは、解決されることはなく、むしろ、積み残された課題である。

介護保険制度下の要介護認定システムに採用された一次判定のロジックは介護現場のデータを詳細に収集し、いくつかの数理モデルを試作し、全国のモデル事業で試行し、その結果に基づいて修正が加えられたものである。一言で言えば、「どのような介護が、どの程度、どのような状態の高齢者に提供されているか」を分析した結果を、逆にさかのぼることによって、73項目の調査項目の結果から提供されるであろう介護の種類を提供時間を予測する数理的なシステムであるともいえる。

このシステムに基づいた結果とその他の情報を総合的に検討し、第二次判定が書く認定審査会によって、決定されることになる。そして要介護度の決定は、居宅サービスにあっては、利用可能な限度支給額を決定し、施設サービスでは、介護報酬を決定することになるのである。それゆえ、第一次判定結果は直接ではないにしても、費用額の決定に重要な役割を担っているといえる。

実際に提供されている介護サービスの種類と時間および介護サービスを受けている本人の属性を示す膨大なデータから73項目の組み合わせによって推定介護提供時間が導き出されているという数理モデルは、一定の科学的評価を受けることが可能であっても、「では、どのような状態であれば要介護度はいくつになるのか」といったシンプルな問に対して説明力を十分に確保していない。それは、73項目に対して、2ないし5の選択肢の組み合わせの全てを人間の認識レベルで説明することが、きわめて困難であるからに他ならない。

しかし、介護現場で介護に従事する多くの専門職は、豊富な知識と体験によって「このような状態であれば、どのような介護サービスが、どの程度、必要であるか」といったことについて、何らかの判断を行なっている。だが、その判断の方法や、判断の材料となる情報の根拠およびその正当性を科学的に説明せよ」といった、意地悪な質問に対しては、明確な回答ができない場合が少なくない。

つまり、判定に使用される数理モデルは、人間の認識レベルで状態を説明できず、逆に人間の認識によって日常的に介護現場で判断される内容について、必ずしも十分な説明ができていないことになる。しかしながら、このようなことは看護研究の分野でも大きな課題と認識され、これまでの膨大な研究成果として報告されているにも関わらず、十分な科学的根拠と多数の看護専門職の指示を集めているわけではない。

このような状態では、介護サービスの質を確保、向上させることもできなければ、実際に質が確保されているのか、本当に向上しているのかといったことにも満足な説明ができなくなってしまう。このようなことから人間の認識レベルで状態を把握し、各要介護度とその介護状態の代表値を簡易に測定できる方法の開発が必要となり、この目的のために本研究で取り組んだのが「簡易介護状態測定尺度」である。この尺度が介護関係の専門職にどの程度、気に入られるか、また専門職以外の人々に、どの程度、理解されるのかは、現状では判断できないが、何らかの官位測定を開発し、使用し、評価を受けるといった連続的な作業が長寿科学研究者によって継続されることは重要である。なぜならば、前に述べた現場と数理モデルとのギャップをうめることなくしては、介護サービスの質の確保と向上ができないからにほかならない。

今日の研究作業によってえられた結果として、都市部や地方都市、群部別の要介護分布は、郡部において、自立、要支援の認定を受けた高齢者の割合が高いという知見が得られた。このことに関する要因分析は、必ずしも十分ではないが、地域特性別に要介護度区分の出現率に差が生じているとすれば、このことの分析とともに質の確保、向上という観点からの研究に取り組むことが今後の重要な課題となると考えられるのである。

## 第2節 今後の課題

わが国では、2000年度から、介護サービスが保険給付の対象として認識され、市場での評価を受けることから、新たに、サービスの質に関しての基準への関心が高まることが予想される。本研究は、3か年の継続研究を考慮しており、初年度は、介護サービスの質に関する評価指標の作成のための資料の収集と分析を行なうにあたってのデータの収集が目的であった。

第1に、これまでの先行研究についての、文献研究を行った。文献の収集にあたって、主として研究的に取り組まれたものについての文献を対象として、過去5年以上遡り検索した。さらに昨今の動向の把握を知るためにも、具体的な取り組みの報告例や総説や解説記事についても検討を加えた。

外国文献に関しては、nursing、quality assurance、outcome、evaluation等をkeywordsとして、MEDLINE、CINAHL、HealthSTARを中心にサーベイを行った。さらにJournal of Healthcare Quality、Journal of Nursing Administration、Journal of Nursing Care Quality、Journal of Nursing Quality Assurance、Journal on Quality Improvement、Quality Review Bulletin、JCAHO Journal等の記事や抄録を直接たどることから追加収集を行った。国内文献に関しては日本看護関係文献集、医学中央雑誌等のデータベースを使用し、さらに「看護研究」、「看護管理」等の検索からの収集も付け加えた。

この先行研究の検討からは、これまで介護サービスの質についての研究は、わが国ではほとんど行なわれておらず、諸外国でも看護領域で行なわれている研究が主であることがわかった。すなわち、「介護サービス」を独立させて、評価を行なった研究は、ほとんどな

かった。これは、諸外国でもわが国においても、もともと介護サービスは、看護の一部であるという認識があるということに起因していると考えられる。

第2に、本年度は、施設や在宅で生活する介護を要する高齢者 6,595 名に対して、介護保険実施前の介護サービスの提供状況についてのデータを収集した。さらに、このデータの特徴を把握し、3ヶ年の継続調査を行なう高齢者群を抽出するための方法論の検討を行なった。継続調査の対象となる高齢者の選定に際しては、とくに要介護度別の典型例を抽出することが必要であると考えられた。このために、高齢者の身体状況だけでなく、地域特性を反映させるための新たな指標を開発した。この指標の作成は、平成7年度の国勢調査のデータを用い、市町村特性に関して、クラスター分析を用い、「地域分類」という指標を開発した。

なお、典型例の抽出を行なうための数学モデルの構築に際しては、平成10年度に厚生省が全国の市町村で行った「高齢者介護サービス体制整備支援事業」で、一次判定および学識経験者らによる認定審査会による二次判定を受けた高齢者 175,129 名の要介護認定で集められた高齢者の身体状況、精神状況などの状態像の情報が用いられた。これらの情報を分析した結果、高齢者の介護状態に関する因子構造モデルが構築され、新たに「簡易介護状態測定尺度」が開発されている。

これらの方法論を用い、介護サービスの提供状況の変化と介護保険実施前後の高齢者の状況との関係等についての解析を行ない、高齢者の変化に影響を与えるような介護サービスの内容について検討を行なうことが次年度の目的であり、課題である。

## 研究委員会組織

主任研究者 筒井 孝子 (国立公衆衛生院)  
分担研究者 小山 秀夫 (国立医療・病院管理研究所)  
分担研究者 中嶋 和夫 (岡山県立大学)  
研究協力者 山内 豊明 (大分県立看護科学大学)  
研究協力者 関 庸一 (群馬大学)  
研究協力者 宮野 尚哉 (弘前大学)  
研究協力者 鈴木 善久 (広島大学)  
研究協力者 筒井 澄栄 (岡山県立大学)  
研究協力者 東野 定律 (国立医療・病院管理研究所)

## 資料編

1. 平成 10 年度要介護認定調査項目一覧
2. 介護保険制度実施において使用された基本調査項目の一覧



## 1. 平成 10 年度要介護認定調査項目一覧

介護サービス調査票 (基本調査)

1. 視力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 特記事項⇒A

1. 普通 (日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 判定不能
---

2. 聴力について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒A

1. 普通 2. 普通の声がやっと聞き取れる、聞き取りが悪いため聞き間違えたりすることがある 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる 4. ほとんど聞こえない 5. 判定不能
--

3. 麻痺等の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可) ⇒A

1. なし      2. 左上肢      3. 右上肢      4. 左下肢      5. 右下肢      6. その他
---

4. 関節の動く範囲の制限の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答可) ⇒A

1. なし      2. 肩関節      3. 肘関節      4. 股関節      5. 膝関節      6. 足関節      7. その他
---

5. じょくそう等の有無について、あてはまる番号に○印をつけてください。 ⇒A

7. じょくそうがありますか <span style="float: right;">1. なし      2. あり</span>
4. じょくそう以外で処置や手入れが必要な皮膚疾患がありますか <span style="float: right;">1. なし      2. あり</span>

6. 片方の手を胸元まで持ち上げられるかについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒A

1. できる      2. 介助があればできる      3. できない
---------------------------------------

7. 嚥下について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒A

1. できる      2. 見守りが必要(介護側の指示を含む)      3. できない
---

8. 寝返りについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

1. つかまらないでできる      2. 何かにつかまればできる      3. できない
--

9. 起き上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

1. つかまらないでできる      2. 何かにつかまればできる      3. できない
--

10. 両足がついた状態での座位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |                          |
|--------------------------|
| 1. できる                   |
| 2. 背もたれがなくても自分の手で支えればできる |
| 3. 背もたれがあればできる           |
| 4. できない                  |

11. 両足がつかない状態での座位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |                          |
|--------------------------|
| 1. できる                   |
| 2. 背もたれがなくても自分の手で支えればできる |
| 3. 背もたれがあればできる           |
| 4. できない                  |

12. 立ち上がりについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |               |                |         |
|---------------|----------------|---------|
| 1. つかまらないでできる | 2. 何かにつかまればできる | 3. できない |
|---------------|----------------|---------|

13. 両足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |             |                |         |
|-------------|----------------|---------|
| 1. 支えなしでできる | 2. 何か支えがあればできる | 3. できない |
|-------------|----------------|---------|

14. 片足での立位保持について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |             |                |         |
|-------------|----------------|---------|
| 1. 支えなしでできる | 2. 何か支えがあればできる | 3. できない |
|-------------|----------------|---------|

15. 歩行について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |               |                |         |
|---------------|----------------|---------|
| 1. つかまらないでできる | 2. 何かにつかまればできる | 3. できない |
|---------------|----------------|---------|

16. 移乗について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒B

- |       |                      |            |           |
|-------|----------------------|------------|-----------|
| 1. 自立 | 2. 見守りが必要(介護側の指示を含む) | 3. 一部介助が必要 | 4. 全介助が必要 |
|-------|----------------------|------------|-----------|

17. 尿意・便意を意識しているかについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

- |       |       |         |       |
|-------|-------|---------|-------|
| 7. 尿意 | 1. あり | 2. ときどき | 3. なし |
| 4. 便意 | 1. あり | 2. ときどき | 3. なし |

18. 排尿後の後始末について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

- |       |               |             |           |
|-------|---------------|-------------|-----------|
| 1. 自立 | 2. 間接的援助のみが必要 | 3. 直接的援助も必要 | 4. 全介助が必要 |
|-------|---------------|-------------|-----------|

19. 排便後の後始末について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

- |       |               |             |           |
|-------|---------------|-------------|-----------|
| 1. 自立 | 2. 間接的援助のみが必要 | 3. 直接的援助も必要 | 4. 全介助が必要 |
|-------|---------------|-------------|-----------|

20. 一般家庭用浴槽の出入りについて、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要	4. 行っていない
-------	------------	-----------	-----------

21. 洗身について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要	4. 行っていない
-------	------------	-----------	-----------

22. 清潔について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

	1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要
ア. 口腔清潔（はみがき等）	1	2	3
イ. 洗顔	1	2	3
ウ. 整髪	1	2	3
エ. つめ切り	1	2	3

23. 食事摂取について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

1. 自立	2. 見守りが必要（介護側の指示を含む）	3. 一部介助が必要	4. 全介助が必要
-------	----------------------	------------	-----------

24. 衣服着脱について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒C

	1. 自立	2. 見守りが必要 (介護側の指示を含む)	3. 一部介助が必要	4. 全介助が必要
ア. ボタンのかけはずし	1	2	3	4
イ. 上衣の着脱	1	2	3	4
ウ. ズボン、パンツの着脱	1	2	3	4
エ. 靴下の着脱	1	2	3	4

25. 居室の掃除について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒D

1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要
-------	------------	-----------

26. 薬の内服について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒D

1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要
-------	------------	-----------

27. 金銭の管理について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒D

1. 自立	2. 一部介助が必要	3. 全介助が必要
-------	------------	-----------

28. 意思の伝達について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。 ⇒E

1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる
2. ときどき伝達できないことがある
3. まれに伝達できることがある
4. できない